

令和元年度 藍野大学短期大学部 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学科:第一看護学科

区分	科目名	教員名	専任・兼任・兼担	担当コマ数	担当時間数	科目時間数	単位	配当年次	備考
専門分野Ⅰ	看護学概論	上田 愛子	専任	15	30	30	1	1	
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	渡辺 史子	専任	15	30	30	1	1	
	成人看護学方法論Ⅱ	田中 裕樹	専任	15	30	30	1	1	
	小児看護学概論	小原 園子	専任	15	30	30	1	1	
	精神看護学概論	大西 康之	専任	15	30	30	1	1	
	精神看護学方法論	中野 幸恵	専任	15	30	30	2	1	
合計単位数							7		
省令で定める基準単位数							7		

学科:第二看護学科

区分	科目名	教員名	専任・兼任・兼担	担当コマ数	担当時間数	科目時間数	単位	配当年次	備考
専門分野Ⅰ	看護学概論Ⅰ	河合 まゆみ	専任	15	30	30	1	1	
	看護学概論Ⅱ	山口 美晴	専任	8	15	15	1	3	
	基礎看護学方法論Ⅳ	磯田 容子	専任	15	30	30	1	1	
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	八幡 久美子	専任	15	30	30	1	1	
	老年看護学概論	船瀬 孝子	専任	15	30	30	1	1	
	小児看護学概論	川中 志保	専任	15	30	30	1	1	
	母性看護学概論	梅川 弘子	専任	15	30	30	1	1	
	母性看護学方法論Ⅱ	筒井 久美子	専任	15	30	30	1	2	
専門基礎分野	精神看護学概論	谷川 英二	専任	15	30	30	1	1	
	保健医療概論	丸山 睦	専任	15	30	30	1	1	
合計単位数							10		
省令で定める基準単位数							10		

学科:専攻科(地域看護学専攻)

区分	科目名	教員名	専任・兼任・兼担	担当コマ数	担当時間数	科目時間数	単位	配当年次	備考
専門分野	公衆衛生看護学概論Ⅰ	北本 さゆり	専任	8	15	15	1	1	
		菊川 縫子	兼任	2	4				
	公衆衛生看護学概論Ⅱ	北本 さゆり	専任	8	15	15	1	1	
	成人保健指導	高橋 真由美	専任	8	15	15	1	1	
	高齢者保健指導	北本 さゆり	専任	8	15	15	1	1	
		中村 勝利	兼任	1	2				※地域包括支援センター職員
		認知症キャラバンメイト	兼任	1	2				※団体名
合計単位数							4		
省令で定める基準単位数							4		

実務経験のある教員等による
授業科目のシラバス

【第一看護学科】

授業科目 看護学概論	担当教員 上田 愛子	配当年次・時期 1年次・前期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義・グループワーク・演習		履修要件 特になし		
授業の概要 看護の基礎として歴史的な変遷、看護の概念、看護の構造や機能、役割について体系的に学び、看護に関する基礎的知識及び態度を習得する。患者を取り巻く医療チームにおける看護の役割と連携について学習し、看護職としての自己の看護観を養う。				
到達目標 1. 看護の概念及び、目的・目標・機能を理解できる。 2. 社会・文化的背景と関連付けて看護の変遷を理解し、将来についての展望を持つことができる。 3. 現代における医療・看護の役割、活動について理解できる。 4. 看護の基盤となる思考過程の意味するところを理解できる。				
学位授与方針との関連 看護師および保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	初回ガイダンス 看護の本質	授業の進め方と授業に臨む姿勢について、「看護観」について看護の基本となる定義と概念、職業としての看護、学問としての看護（講義）		上田 愛子
2	看護学の主要概念	患者中心の看護、「患者中心の医療」7つの要素 看護学の主要概念、看護知識の発展（講義）		上田 愛子
3	看護の歴史	看護の変遷（看護の過去から現在まで）（講義）		上田 愛子
4	看護理論家みる看護の定義	ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、トラベルビー、ロイ（講義）		上田 愛子
5	クリティカルシンキング能力の育成	「批判」と「批難」の違い ディベート（5分間）＞発表（15分間）＞解答（講義・演習）		上田 愛子
6	看護の対象	全体としての人間、成長・発達する存在、ニーズをもつ存在、生活を営む存在、適応する存在、社会・文化的存在、ライフサイクルと発達課題（講義）		上田 愛子
7	健康と生活	健康とは何か、健康の諸相、健康生活とQOL、生活習慣とセルフケア、健康への影響要因（社会的法的要因と健康格差）（講義）		上田 愛子
8	看護における倫理	基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳、医療の倫理原則、看護とインフォームドコンセント、専門職としての倫理（講義）		上田 愛子
9	看護の倫理	専門職としての倫理、医療をめぐる倫理原則とケアの倫理（講義）		上田 愛子
10	対象との関係の形成	信頼関係、援助関係、協働関係（講義）		上田 愛子
11	看護における連携と協働	看護職間の連携と協働、多職種間の連携と協働、チームでの活動（講義）		上田 愛子
12	看護における学習支援	看護における学習支援とは、事例をもとに集団を対象に健康教育を行う（講義）		上田 愛子
13	医療安全 基盤となる思考過程	事故発生メカニズム ヒューマンエラーを防ぐためのクリティカルシンキング（講義）		上田 愛子
14	看護情報管理 基盤となる思考過程	医療情報と看護情報 看護における情報管理 看護記録・報告と共有 EBN（講義）		上田 愛子
15	看護過程	看護過程展開の意義と構成要素（講義）		上田 愛子
授業時間外の学習 看護学概論の授業形態の基本は、反転学習です。前もって指示されたレポート課題を提出して授業に臨んでください。				
教科書 「新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論」 メヂカルフレンド社 「看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理」 日本看護協会出版会				
参考文献等 「看護覚え書」 フローレンスナイチンゲール 「患者中心の看護」 アブデラ				
評価の方法 レポート（30%）・定期試験（50%）・グループワーク、演習への参加状況（20%）				
オフィスアワー 講義の日の放課後				
授業に関する実務経験 ・病院、診療所にて看護師として勤務				

授業科目 成人看護学概論	担当教員 渡辺 史子	配当年次・時期 1年次・通年	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義・演習・発表		履修要件 特になし		
授業の概要 成人期における生活行動の特徴と各発達段階を身体的・心理的・社会的に個人を総合的に理解する。 成人期の発達段階と発達課題を関連させ成人看護学の理論や援助方法を学ぶ。 成人期の健康障害が個人のみならず家族や社会生活に及ぼす影響について理解し、その看護援助について学ぶ。				
到達目標 ・成人各期の健康保持・増進や疾病の予防について理解できる。 ・成人期にある人が最適な健康を維持・促進するための看護援助が理解できる。 ・成人期の健康生活を多角的にとらえる視点を持ち看護実践に生かすことができる。 ・成人の生活に関する基本的知識を理解し成人の多様な健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考えや方法を学ぶことができる。				
学位授与方針との関連 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法	担当	
1	成人の生活と健康	身体的・心理的・社会的側面から対象を理解する（講義）	渡辺 史子	
2	成長・発達における成人期の特徴	成人各期の発達段階・発達課題の特徴を理解する（講義）	渡辺 史子	
3	成人期における役割・健康問題・身体機能の特徴	成人を取り巻く環境と生活からとらえた健康問題を理解する（講義）	渡辺 史子	
4	生活習慣に関連する健康問題	生涯発達論や他者との相互性、また生活習慣や社会的役割に関連した健康問題を理解する（講義）	渡辺 史子	
5	成人への看護アプローチの基本	個人へのアプローチのみならず家族や社会における様々な集団を含め看護の対象として理解する（講義）	渡辺 史子	
6	成人の健康行動の捉え方	アンドラゴジー・エンパワメント・行動変容を促進するアプローチ（講義）	渡辺 史子	
7	ヘルスプロモーションと看護	地域社会における成人のヘルスプロモーションを促進する看護（講義）	渡辺 史子	
8	ストレスに関連する健康障害	就労・労働形態がもたらす健康問題と職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護（講義）	渡辺 史子	
9	健康をおびやかす要因	生活行動がもたらす健康問題とその予防（講義）	渡辺 史子	
10	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	急性期にある人の看護と救急医療を必要とする人々への支援（講義）	渡辺 史子	
11	障害がある人の生活とリハビリテーション	急性期のリハビリテーションと回復期のリハビリテーションと看護（講義）	渡辺 史子	
12	人生の最後のときを支える看護	緩和ケア・全人的苦痛（トータルペイン）・スピリチュアルペインについて理解する（講義）	渡辺 史子	
13	治療過程にある患者への看護技術	治療による身体侵襲から回復を促進する看護・ボディイメージの変化に対する看護（講義）	渡辺 史子	
14	新たな治療法、先端医療と看護	意思決定を支える看護（講義）	渡辺 史子	
15	まとめ	（演習・発表）	渡辺 史子	
授業時間外の学習 ・授業は基本的に教科書を中心に進めていく。パワーポイントは最小限とする。 ・授業前は事前に期限内に課題を提出すること。事前課題の内容は授業開始前にそのつど発表または掲示する。 ・授業開始までにテキスト内の重要用語等を事前に調べ自己学習しておくこと。 ・授業終了後は時間外学習としてテキスト、参考文献、配布資料をもとに授業ノートをまとめておく。 ・授業の進行状況によって講義を演習形式に変更する場合がある。 ・レポート課題については、提出期限を厳守し計画的に提出する。				
教科書 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論」医学書院				
参考文献等 教員により参考文献は適宜紹介し、作成資料および教科書に基づき授業を展開する。				
評価の方法 定期試験 90%、レポート 10%、授業進捗度によって内容は変更することがある。				
オフィスアワー 金曜日の16:10～16:40（但し外部出張時など変更となる場合がある）				
授業に関する実務経験 ・病院にて看護師として勤務				

授業科目	担当教員	配当年次・時期	単位数/時間数	必修/選択別
成人看護学方法論Ⅱ	田中 裕樹	1年次・後期	1単位/30時間	必修
授業方法	履修要件			
講義・演習	特になし			
授業の概要				
各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護について必要な知識を学ぶ。				
到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護検査や治療における侵襲と生体反応に伴う身体・心理・生活・社会的側面に及ぼす影響についてアセスメント方法を理解する。 事例を通して、各機能障害における患者の特徴および病期から必要な看護ケアを考え、看護展開の方法を理解する。 				
学位授与方針との関連				
看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	授業ガイダンス・各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護	シラバスの説明。各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護について（講義）		田中 裕樹
2	呼吸機能障害ある患者の看護	呼吸機能障害ある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
3	循環機能障害ある患者の看護	循環機能障害ある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
4	消化・吸収機能障害のある患者の看護	消化・吸収機能障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
5	栄養代謝機能障害のある患者の看護	栄養代謝機能障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
6	内部環境調節機能障害のある患者の看護	内部環境調節機能障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
7	内分泌機能障害のある患者の看護	内分泌機能障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
8	身体防御機能の障害のある患者の看護	身体防御機能の障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
9	脳・神経機能障害のある患者の看護	脳・神経機能障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
10	感覚機能障害のある患者の看護	感覚機能障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
11	運動機能障害のある患者の看護	運動機能障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
12	排尿機能障害のある患者の看護	排尿機能障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
13	性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護	性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護について（講義）		田中 裕樹
14	機能障害のある患者事例における看護過程演習①	機能障害のある患者事例における看護過程の演習		田中 裕樹
15	機能障害のある患者事例における看護過程演習②	機能障害のある患者事例における看護過程の演習		田中 裕樹
授業時間外の学習				
<ul style="list-style-type: none"> 授業開始までに予習として、テキストを既読し授業に臨むようにする。その際学習目標の確認及び、テキスト内の重要な用語等は事前に学習を行うようにする。 授業終了後は、テキスト、参考文献、配布資料や授業ノートをもとに自宅で復習をする。 予習、復習は習慣づけるようにし、学習内容に理解不足がある場合、主体的・積極的に担当教員に質問をする。 レポート課題については、提出期限を厳守し計画的に提出すること。 				

教科書

「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学2	呼吸器」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学3	循環器」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学4	血液・造血器」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学5	消化器」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学6	内分泌・代謝」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学7	脳・神経」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学8	腎・泌尿器」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学9	女性生殖器」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学10	運動器」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学11	アレルギー・膠原病	感染症」 医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学13	眼」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学14	耳鼻咽喉」	医学書院
「系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学15	歯・口腔」	医学書院

参考文献等

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚」 医学書院
「系統看護学講座 別巻 臨床外科学各論」 医学書院
「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院
参考文献は適宜紹介し、作成資料に基づき授業を展開する。

評価の方法

- ・学科試験（100％）評価する。
- ・レポート点数は、学科試験を受験した時点で加点されます。
- ・授業内容・展開については変更する場合があります。

オフィスアワー

原則水曜日は16時から17時、金曜日は16時から17時とする。ただし、都合により変更することがある。

授業に関する実務経験

- ・病院にて看護師として勤務

授業科目	担当教員	配当年次・時期	単位数/時間数	必修/選択別
小児看護学概論	小原 園子	1年次・通年	1単位/30時間	必修
授業方法	履修要件			
スライド、ビデオを用いた講義	特になし			
授業の概要				
小児各期にある子どもの成長・発達、日常生活における小児及び家族を取り巻く環境との相互作用を理解する。疾病や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。発達段階に応じた病児への看護の基本となる概念を学ぶ。				
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児を取り巻く環境について知り、小児の権利や小児の擁護について考えることができる。 2. 小児の成長・発達の原則について説明でき、心理社会的発達についても述べるができる。 3. 小児の各期の特徴を理解し、形態的・機能的発達について具体的に説明できる。 4. 予防接種や学校保健法について説明できる。 5. 小児のフィジカルアセスメントについて、意義と概要を述べるができる。 6. 健康障害が小児とその家族に与える影響について考え、看護について述べるができる。 				
学位授与方針との関連				
看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	小児看護の特徴	小児看護の対象、小児看護の目標と役割、小児看護における倫理について(講義)		小原 園子
2	子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉の歴史、医療費の支援、特別支援教育、臓器移植について(講義)		小原 園子
3	子どもの成長発達	成長・発達とは、成長・発達の進み方、成長・発達に影響する因子について(講義)		小原 園子
4	小児看護での理論	小児における自我発達理論、認知発達理論、アタッチメント理論について(講義)		小原 園子
5	新生児期における成長・発達と看護	新生児期の形態・身体生理の特徴、各機能の発達、養育および看護について(講義)		小原 園子
6	乳児期における成長・発達と看護	乳児期の形態・身体生理・感覚・運動・知的・情緒・社会的機能、養育および看護について(講義)		小原 園子
7	幼児期における成長・発達と看護	幼児期の形態・身体生理・感覚・運動・知的・情緒・社会的機能、養育および看護、について(講義)		小原 園子
8	学童期・思春期における成長・発達と看護	学童期・思春期の形態・身体生理・感覚・運動・知的・情緒・社会的機能、養育および看護について(講義)		小原 園子
9	病気・障害が子どもと家族に与える影響	病気・障害に対する子どもの反応、家族の反応、子どもの健康問題と看護について(講義)		小原 園子
10	子どもの状況に特徴づけられる看護	入院中・外来・在宅・災害時の子どもと家族の看護について(講義)		小原 園子
11	慢性期・急性期・周手術期・終末期の子どもと家族への看護	慢性状態が子どもに与える影響、子どもの生命・死についてのとらえ方について(講義)		小原 園子
12	子どものフィジカルアセスメント	アセスメントに必要な技術、身体的アセスメントについて(講義)		小原 園子
13	症状を示す子どもの看護	不きげん、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック等について(講義)		小原 園子
14	検査・処置を受ける子どもの看護	子どもにとっての検査・処置体験、薬物動態と薬用量の決定について(講義)		小原 園子
15	虐待を受けた子どもへの看護	子どもの虐待とは、子どもの虐待に特徴的にみられる状況について(講義)		小原 園子
授業時間外の学習				
事前に教科書を読み予習を行うこと。				
教科書				
「系統看護学講座 専門分野2 小児臨床看護総論」医学書院				
参考文献等				
「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術」メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護」メディカ出版 「系統看護学講座 専門分野2 小児臨床看護各論」医学書院				
評価の方法				
授業態度もしくは平常点5%、定期試験95%				
オフィスアワー				
水曜日 13:00~16:30				
授業に関する実務経験				
・病院にて看護師として勤務				

授業科目 精神看護学概論	担当教員 大西 康之	配当年次・時期 1年次・通年	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義		履修要件 特になし		
授業の概要 精神看護学に関する諸モデルと精神の健康を理解するための諸概念、精神障害と治療及び看護、精神看護の場など精神看護学の基盤について学習する。				
到達目標 1. 精神の健康に関する普及啓発を理解し、偏見、差別、スティグマを理解する。 2. 精神の健康とマネジメントについて学び精神保健福祉法を説明することができる。 3. レジリエンスの考えを説明することができる。 4. 思考障害とはどのような障害か説明することができる。				
学位授与方針との関連 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	現代社会の変化と精神の健康：心の病気	もえつき症候群・いじめについて（講義）		大西 康之
2	精神障害者の家族支援：精神障害者の援助	精神障害者地域支援について（講義）		大西 康之
3	心の健康と不健康：自我の機能	不安に対する援助について（講義）		大西 康之
4	精神力動理論（フロイト）	エス・自我・超自我について（講義）		大西 康之
5	ライフサイクルとアイデンティティ	エリクソンの発達理論について（講義）		大西 康之
6	防衛機制危機理論とストレス	自我の防衛機種の種類について（講義）		大西 康之
7	救急医療と精神保健福祉の関係	ICU症候群について（講義）		大西 康之
8	地域精神保健福祉活動について	病院精神医学から地域へについて（講義）		大西 康之
9	危機への対処（コーピング）	PTSDについて（講義）		大西 康之
10	逸脱とスティグマ	社会的烙印について（講義）		大西 康之
11	精神症状と状態像	統合失調症について（講義）		大西 康之
12	精神科における治療	向精神病薬の歴史について（講義）		大西 康之
13	精神障害者の処遇	成年後見制度について（講義）		大西 康之
14	精神障害者の法制度	行動制限について（講義）		大西 康之
15	精神保健福祉法による入院形態	開放処遇について（講義）		大西 康之
授業時間外の学習 ・ 授業開始までに予習として、テキストを既読し授業に臨むようにする。 ・ 講義終了後は配布した資料や授業ノートの整理をする。 ・ 予習、復習を習慣づけるようにし、学習内容を深める。				
教科書 武井 麻子他「系統看護学講座 専門分野2 精神看護学① 精神看護の基礎」医学書院				
参考文献等 講義の中で適宜参考書図書文献を紹介する。				
評価の方法 定期試験80% 授業態度・参加姿勢20%で評価する。				
オフィスアワー 月曜日～金曜日 16:30～17:00				
授業に関する実務経験 ・ 病院にて看護師として勤務				

授業科目 精神看護学方法論	担当教員 中野 幸恵	配当年次・時期 1年次・後期	単位数/時間数 2単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義		履修要件 特になし		
授業の概要 精神医療を取り巻く状況の急速な変化を理解し、入院や地域に関わらず、精神障害を持つ人や、家族の援助について学ぶ。そして、すべてのライフサイクルにある人を対象に、こころの健康を成長発達・社会適応の側面から捉え、心の健康を保持、増進、障害の予防及び精神障害をきたした個人とその家族を理解し、人権を尊重した看護の実践を学ぶ。				
到達目標 1. 精神医療を取り巻く状況の急速な変化を理解し、現代の医療について考えることができる。 2. すべてのライフサイクルにある人を対象とし、こころの健康を成長発達、社会適応の側面から理解できる。 3. こころの健康を保持、増進、障害の予防及び精神障害をきたした対象とその家族を理解できる。				
学位授与方針との関連 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	授業ガイダンス 人間関係について ①自分を知ること	授業内容のガイダンス ケアの中心が感情であること、その感情を手がかりにして、自分を知ることが重要であることを事例を通じて学ぶ。(講義)		中野 幸恵
2	人間関係について ②相手を知ること	相手のことを知り、理解すること 患者へのかかわり方、精神障害をもつ人へのケアの基本的な方(講義)		中野 幸恵
3	安全管理/安全を守る	患者の人権、リスクマネジメント、緊急事態の対処(講義)		中野 幸恵
4	身体と心	心の痛みがどのようにして身体で表現されるのか(講義)		中野 幸恵
5	精神科における合併症/精神科における身体ケアの実際	抗精神病薬の副作用 身体合併症(講義)		中野 幸恵
6	精神障害者を支える医療従事者	他職種連携について(講義)		中野 幸恵
7	心的外傷について/災害時の看護	心的外傷・愛着形成・エンパワメント・災害時の看護(講義)		中野 幸恵
8	セルフケア理論について	セルフケア理論を学び、10の授業内で実際に演習を行う。(講義)		中野 幸恵
9	演習：看護過程の展開	情報収集～関連図(演習)		中野 幸恵
10	演習：看護過程の展開	看護計画立案(演習)		中野 幸恵
11	地域で暮らすために	当事者、援助者が心得ておくこと(講義)		中野 幸恵
12	地域での取り組み	社会制度とその基盤となる考え方(講義)		中野 幸恵
13	リエゾン精神看護	一般診療科において資料を受けている人が陥りやすい精神保健上の問題 リエゾン看護師の役割(講義)		中野 幸恵
14	ストレスマネジメント	人をケアする仕事の特性(講義)		中野 幸恵
15	レジリエンスを高めるまとめ	看護者自身のメンタルヘルス上の問題への対処(講義)		中野 幸恵
授業時間外の学習 ・各回の授業内容について予習・復習し理解すること。 ・1回、2回目終了時にレポート課題を課すので作成し提出すること。 ・9回、10回目終了時授業で用いた事例についての課題を提出すること。 ・1回目のオリエンテーションで平成30年看護師国家試験出題基準を配布するので、授業後に出題基準に沿って学習を深めていくこと。				
教科書 「系統看護学講座 専門分野2 精神看護学2 精神看護の展開」医学書院 「看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術」メヂカルフレンド社				
参考文献等 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学2 精神障害と看護の実際」メディカ出版 「系統看護学講座 別巻 精神保健福祉」医学書院				
評価の方法 学科試験90%、レポート10%				
オフィスアワー 月～金 16時10分以降				
授業に関する実務経験 ・病院に看護師として勤務				

実務経験のある教員等による
授業科目のシラバス

【第二看護学科】

授業科目 看護学概論Ⅰ	担当教員 河合 まゆみ	配当年次・時期 1年次・前期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 演習	履修要件 特になし			
授業の概要（150文字程度） 看護の基本的概念である「人間」「健康」「環境」「看護」について学ぶと共に、看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割と機能について理解を深める。また、看護の実践を支える理論などの学習を通じ、自らの看護観を構築するための手がかりとする。				
到達目標 1. 看護の歴史的な変遷について理解できる。 2. ナイチンゲールやヘンダーソン等の看護論の学習をとおり、看護の本質について探究することができる。 3. 看護の対象である人間を統合的にみることの必要性について理解できる。 4. 看護実践の成り立ちと看護活動の概要について理解できる。 5. 保健・医療・福祉の中での看護の役割と他職種との連携・協働の必要性が理解できる。 6. 専門職者としての責任が理解でき、今後の看護のあり方について考察できる。				
学位授与方針との関連 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができる。円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や多職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わるができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法	担当	
1	ガイダンス 看護の歴史の変遷	科目ガイダンス 海外における職業としての看護の発展 (講義)	河合 まゆみ	
2		わが国における職業としての看護の発展 (講義)		
3	看護の対象	人間の「こころ」と「からだ」「くらし」の理解 (講義)		
4	健康の理解	国民の健康・生活の全体像の把握 (講義)		
5	看護活動の実際	看護の本質 看護における役割と機能 (講義)		
6	看護の基本概念	「人間」「健康」「環境」「看護」の概念 (講義、演習)		
7	看護理論	看護実践のための枠組み ナイチンゲールの看護論 (講義、演習)		
8		看護実践のための枠組み ヘンダーソンの看護論 (講義、演習)		
9	看護の基本概念	「人間」「健康」「環境」「看護」の概念について、第7回・8回での学びをもとに概念図をグループで作成 (演習)		
10		「人間」「健康」「環境」「看護」の概念について、第7回・8回・9回での学びをもとに概念図をグループで作成 (演習)		
11		「人間」「健康」「環境」「看護」の概念図をグループで発表 (演習)		
12	看護の質の保証 看護における倫理	看護実践とその質保証に必要な要件 看護倫理 (講義)		
13		看護実践における倫理問題への取り組み (講義)		
14	チーム医療における看護職の役割	看護の提供のしくみ 医療チームにおける看護職の役割 (看護)		
15	これからの看護	看護の新たな展開と課題 (講義)		
授業時間外の学習 紹介された文献を積極的に読み、看護理論家についてまとめを行う				
教科書 系統看護学講座 看護学概論（医学書院） 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）				
参考文献等 フローレンス・ナイチンゲール著、湯楨ます・薄井田子他訳『看護覚書～看護であること看護でないこと』現代社 ヴェージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会 講義の際に適宜提示します。				
評価の方法 終講試験（筆記）80％、課題 20％				
オフィスアワー 講義終了後10分間				
授業に関する実務経験 ・病院にて看護師として勤務。				

授業科目 看護学概論Ⅱ	担当教員 山口 美晴	配当年次・時期 3年次・前期	単位数/時間数 1単位/15時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義・演習	履修要件 特になし			
授業の概要（150文字程度） 看護管理を管理者だけでなく、看護実践者にも必要なものにとらえることを前提とし、看護実践の場が地域へと拡大されるなど【看護の統合と実践の拡充】に係る現状でのチーム医療、多職種との協働、看護サービスのマネジメントの知識と技術、キャリア開発の必要性などを学ぶ。				
到達目標 1. 医療ケアシステムや看護組織について理解ができる。 2. 看護サービスのマネジメントに必要な知識と技術が理解できる。 3. 看護提供方式を理解し、メンバーシップ、リーダーシップが理解できる。 4. 看護職と専門職性について理解し、キャリア開発の必要性が理解できる。				
学位授与方針との関連 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	看護管理とは	看護管理とは、看護におけるマネジメント、マネジメントの考え方の変遷 (教科書および配布資料に沿って講義)		山口 美晴
2	看護ケアのマネジメントと看護職の機能	看護ケアのマネジメントと看護職の機能、看護ケア提供者としての機能 (教科書および配布資料に沿って講義)		
3	患者の権利 医療安全	患者の権利の尊重、安全管理、医療事故対策、組織におけるリスクマネジメント (教科書および配布資料に沿って講義)		
4	チーム医療、看護職の責任と役割、他職種との連携・協働	チーム医療、看護職の責任と役割、他職種との連携・協働 日常業務のマネジメント、看護基準と看護手順、看護記録 (教科書および配布資料に沿って講義)		
5	看護サービスのマネジメント	看護サービスの提供の仕組み、組織目的達成のマネジメント 看護の組織化、看護ケア提供システム (教科書および配布資料に沿って講義)		
6	人材のマネジメント、 看護職の教育制度	人材のマネジメント、看護職の教育制度、継続教育、労働環境、看護の質の評価、施設・設備環境・物品・情報のマネジメント (教科書および配布資料に沿って講義)		
7	看護職と専門職性、 看護職と法制度	看護を取り巻く諸制度、看護の定義、看護職と専門職性、看護職と法制度医療法、その他の関係法規 (教科書および配布資料に沿って講義)		
8	マネジメントプロセス、 組織文化	マネジメントに必要な知識と技術 リーダーシップ理論、コミュニケーション、動機づけ理論、ストレスマネジメント (教科書および配布資料に沿って講義)		
授業時間外の学習 教科書および資料による予習と授業後の復習				
教科書 系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践1 医学書院				
参考文献等 日本看護協会：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2016。日本看護協会出版会、2016 日本看護協会編：看護白書。日本看護協会出版会、2016				
評価の方法 終講試験（筆記）100%				
オフィスアワー 講義終了後10分間				
授業に関する実務経験 ・病院にて看護師として勤務				

授業科目 基礎看護学方法論Ⅳ	担当教員 磯田 容子（主）	配当年次・時期 1年次・前期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義・演習		履修要件 特になし		
授業の概要（150文字程度） 皮膚・粘膜機能を正常に働かせ、新陳代謝を高めるには、常に清潔を保つことが必要である。人間にとっての清潔に関する意義を考えるとともに、知識を深め、日常生活援助技術を根拠に基づき実践する力を培う。また、学内演習では、対象者と看護師の役割を体験し、互いの学びを共有し学習を進展させていく。				
到達目標 1. 病床での衣生活について理解し、和式寝衣の援助方法を習得できる。 2. 身体の清潔の意義と基礎知識を理解し、援助方法を習得できる。				
学位授与方針との関連 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	ガイダンス	科目ガイダンス 清潔技術チェックについて説明	(講義)	磯田 容子
2	病床での衣生活の援助	衣生活援助の基礎知識 衣生活援助の実際	(講義)	磯田 容子
3	清潔の援助	清潔援助の基礎知識	(講義)	磯田 容子
4		清潔援助の実際、入浴・シャワー浴、全身清拭		磯田 容子
5	病床での衣生活の援助	寝衣交換	(演習)	磯田 容子、今宮 弘子、松本 明子 眞菜里 直美、阪上 裕子、他
6		寝衣交換、事例を用いて	(演習)	磯田 容子、今宮 弘子、松本 明子 眞菜里 直美、阪上 裕子、他
7	清潔の援助	全身清拭	(演習)	磯田 容子、今宮 弘子、松本 明子 眞菜里 直美、阪上 裕子、他
8				
9				
10		清潔の援助の実際 整容、口腔ケア	(講義)	磯田 容子
11		清潔援助の実際 洗髪、足浴	(講義)	磯田 容子
12		口腔ケア	(演習)	磯田 容子、今宮 弘子、松本 明子 眞菜里 直美、阪上 裕子、他
13		洗髪、足浴	(演習)	磯田 容子、今宮 弘子、松本 明子 眞菜里 直美、阪上 裕子、他
14				
15	まとめ	清潔の援助のまとめ	(講義)	磯田 容子
授業時間外の学習 初回講義時のガイダンスにて説明します。 ・事前課題の取り組みと事後学習が必修です。 ・技術の修得に向けて積極的に練習を重ねてください。				
教科書 茂野 香おる 他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 医学書院 任 和子 他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 医学書院 三上 れつ 他「演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして」 NOUVELLE HIROKAWA				
参考文献等 講義の際に適宜提示します。				
評価の方法 終講試験（筆記）80％ 提出物 20％				
オフィスアワー 講義終了後10分間				
授業に関する実務経験 ・病院、訪問看護ステーションにて看護師として勤務。一般企業にて産業看護師として勤務。				

授業科目 成人看護学概論	担当教員 八幡 久美子	配当年次・時期 1年次・後期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修	
授業方法 講義	履修要件 特になし				
授業の概要					
<p>成人各期の身体的・精神的・社会的特徴や保健問題・動向について教授する。 生活習慣や職業と健康障害との関連や、健康障害の予防や健康の保持・増進・回復のための看護実践について学ぶ。 成人看護に有用な理論や概念、成人学習についても教授する。成人の紙上事例に対する具体的な看護介入を学ぶ。 また成人看護学総論の国家試験問題に取り組む。</p>					
到達目標					
<p>成人各期の身体的・精神的・社会的特徴や保健問題・動向、生活習慣や職業と健康障害との関連について、グループワーク・発表等を通して理解できる。 健康の保持・増進、疾病の予防、健康障害のある成人の健康回復のための看護実践について理解できる。 理論や概念をもとに成人の特徴を理解し、看護実践について考えることができる。 修得した知識をもとに、紙上事例の看護介入を考えることができる。 修得した知識をもとに、成人看護学総論の国家試験問題を解くことができる。</p>					
学位授与方針との関連					
<p>看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。</p>					
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当	
1	成人の特徴	成人とは、大人とは、成人の区分・発達課題・役割、成人各期の特徴、成人と死	(講義)	八幡 久美子	
2		身体機能の特徴と看護	(講義)		
3	生活の特徴	成人の生活	(講義)		
4	健康観	多様な健康観から看護を考える…自立度・自尊心・QOLなど	(講義)		
5	成人学習	アンドラゴジーとエンパワメントの概念から、成人学習と成人看護を考える	(講義)		
6・7	健康問題	生活習慣と健康障害との関連、職業に関連する健康障害 「国民衛生の動向」の文献から成人の保健問題とその動向について(事前課題あり)	(発表)		
8	健康障害	生活ストレスやセクシャリティに関連する健康障害	(講義)		
9		余暇活動に伴う健康障害、更年期にみられる健康障害	(講義)		
10	理論や概念	成人看護に有用な理論や概念…病みの軌跡、セルフケア	(講義)		
11		成人看護に有用な理論や概念…ストレス、危機	(講義)		
12		成人看護に有用な理論や概念…適応、自己効力、ヘルスポモーション	(講義)		
13・14	紙上事例	事例から成人患者の看護介入を考える(事前課題あり)	(発表)		
15	小テスト	成人看護学総論の国家試験問題と解説	(講義)		
授業時間外の学習					
<p>事前に教科書を読み予習することと、授業のあとに教科書や資料を読み復習を行う。 文献や信頼のおけるインターネット情報を利用して、教員の提示する課題に取り組む。</p>					
教科書					
<p>安酸史子編「ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論」メディカ出版 国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p>					
参考文献等					
<p>ビエール・ウグ「慢性疾患の病みの軌跡」医学書院 佐藤栄子「中範開理論入門」日総研、その他、適宜紹介していく。</p>					
評価の方法					
<p>終講試験(筆記)90%、課題の取り組み10%で評価する。</p>					
オフィスアワー					
<p>講義終了後10分間</p>					
授業に関する実務経験					
<p>・病院にて看護師として勤務。中学校、高等学校、保育園、特別養護老人ホームにて派遣看護師として勤務</p>					

授業科目 老年看護学概論	担当教員 船瀬 孝子	配当年次・時期 1年次・後期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義・演習	履修要件 特になし			
授業の概要（150文字程度） 老年期を生きる人々の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、わが国の高齢社会の特徴と課題・保健医療福祉の概要および老年期の人の健康問題と看護について学ぶ。 また、老年期を生きる人々の多様性を理解し、高齢者の健康状態のアセスメントと看護を展開するために必要な基礎的知識を学ぶ。				
到達目標 1. 老年期を生きる人々を多角的にとらえ、発達課題を理解できる。 2. 加齢に伴う心身の諸機能の変化と生活への影響を理解できる。 3. 高齢者に特徴的な生理的变化と起こりやすい健康問題について理解できる。 4. 高齢者を取り巻く社会的状況・保健医療福祉の動向について理解できる。 5. 高齢者の身体に加齢変化とアセスメントの視点が理化できる。 6. 老年看護の理念と倫理的課題について考察できる。				
学位授与方針との関連 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	ガイダンス 老年期を生きる人の理解	ガイダンス 「老いる」ということ・「老をい生きるということ」 ライフサイクルと老年期 (義)	(講)	船瀬 孝子
2	老年期を生きる人の理解	エイジングと加齢変化 身体的・心理的・社会的側面の変化 (義)	(講)	
3	超高齢社会の統計的輪郭	超高齢社会の現況・高齢者と家族・高齢者の健康状態 (義)	(講)	
4	超高齢社会と社会保障	高齢者に関する保健・医療・福祉制度 (義)	(講)	
5	老年看護の倫理的課題	高齢者の権利擁護・高齢者虐待・身体拘束・制度 (義)	(講)	
6	老年看護のなりたち	老年看護の歴史・老年看護の定義と役割 老年看護における理論と概念 (義)	(講)	
7	高齢者のヘルスアセスメント	心身の加齢変化とヘルスアセスメント 健康アセスメントの枠組みと方法 (義)	(講)	
8		身体に加齢変化とアセスメント①外皮系/感覚器系 (義)	(講)	
9		身体に加齢変化とアセスメント②循環系/呼吸器系 (義)	(講)	
10		身体に加齢変化とアセスメント③消化器系/腎・泌尿器系/内分泌・代謝系 (義)	(講)	
11		身体に加齢変化とアセスメント④運動器系 (義)	(講)	
12		身体に加齢変化とアセスメント⑤認知機能 (義)	(講)	
13	高齢者疑似体験	高齢者の疑似体験のガイダンス (義)	(講義・演習)	
14		高齢者疑似体験（おいたろう） (演習)	(演習)	
15		高齢者疑似体験の発表・まとめ (義)	(講義・演習)	
授業時間外の学習 教科書による予習と授業後の復習 日頃から報道などで一般的にいわれていること、授業で学んだ内容を合わせて、高齢者への看護を考えてほしい。				
教科書 系統看護学講座 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)				
参考文献等 講義の際に適宜紹介・配布する。				
評価の方法 終講試験（筆記） 100%				
オフィスアワー 講義終了後10分間				
授業に関する実務経験 ・病院、大学医務室にて看護師として勤務				

授業科目 小児看護学概論	担当教員 川中 志保	配当年次・時期 1年次・後期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義・グループワーク	履修要件 特になし			
授業の概要（150文字程度） 子どもは家族に守られ日々成長・発達し、次世代を担う大人になる存在である。 子どもを取り巻く社会の変化と小児看護の歴史の変遷に注目し、現代の子どもと家族について理解を深める。 子どもが健やかに育つために、発達段階をふまえた養育の方法をグループワークを交えて学習し、子どもの健康の維持・増進のための看護について学ぶ。				
到達目標 1. 子どもとは何かを理解することができる。 2. 小児看護の変遷を知り、小児看護の目的、機能、役割を理解できる。 3. 子どもの成長発達を理解できる。 4. 子どもの発達段階、発達課題を考慮し、適切な日常生活援助が理解できる。 5. 小児看護の対象ととりまく環境を理解できる。 6. 子どもに関する条約や法律を理解し、子どもの人権を理解できる。 7. 子どもを支える社会サポートシステムについて理解できる。 8. 子どもを一人のかけがえのない存在としてとらえ、愛情を持って接する態度を養う。				
学位授与方針との関連 ・看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 ・患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 ・社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 ・自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 ・修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	小児看護の変遷と看護の目的 (過去・現在・未来)	シラバスの説明、子どもとは、子どもと家族 (講義)		川中 志保
2	子どもの権利	小児看護における倫理 (講義、グループワーク)		
3	子どもの成長と発達	子どもの成長・発達の原則、成長・発達を学ぶ意義 (講義)		
4	子どもの形體的・機能的・心理社会的特徴	子どもの社会性の発達、形體的・機能的・心理社会的発達の特徵 (講義、課題)		
5	成長・発達理論からみた子どもと小児看護に用いる理論 子どもの健康の維持と増進のための看護	発達理論と小児期の発達課題 (講義)		
6	乳児期 (成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助)	新生児の生活 (講義、演習)		
7		乳児期の生活 (講義)		
8	幼児期 (成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助)	幼児期の日常生活 (講義)		
9		幼児期の遊び、社会性の発達 (講義)		
10	学童期 (成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助)	学童期の子ども生活 (講義)		
11	思春期 (成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助)	思春期の子ども生活 (講義)		
12	子どもの安全	乳幼児の発達段階に応じた安全な環境 (講義、グループワーク)		
13	子どもと家族の特徴	ライフサイクルからみた子どもと家族 (講義、課題、グループワーク)		
14	子どもを取り巻く社会と子どもの健康を守るしくみ	子どもと家族を取り巻く環境変化と保健、社会制度 (講義)		
15				
授業時間外の学習 予習・復習をして授業に臨むこと。				
教科書 奈良間美保他：系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 舟島なをみ：看護のための人間発達学 医学書院				
参考文献等 筒井貞優美：小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日経研 新 保育士養成講座編纂委員会編：新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学 改定 保育士養成講座編纂委員会編：改訂・保育士養成講座2006 第3巻 発達心理学 坂野雄二他：ベーシック現代心理学 臨床心理学、厚生労働省HP				
評価の方法 終講試験（筆記）100%				
オフィスアワー 講義終了後10分間				
授業に関する実務経験 ・病院、保育園、行政機関にて看護師として勤務				

授業科目 母性看護学概論	担当教員 梅川弘子	配当年次・時期 1年次・後期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義	履修要件 特になし			
授業の概要（150文字程度） 母性の概念を理解し、母性を取り巻く社会状況と母子保健の動向とそれに関係する施策・制度について学び、家族と地域社会を繋ぐ必要性を理解する。また、女性とパートナーとしての男性の健康の保持・増進を目指し、次世代の子どもを健全に育成するために、親になる過程に必要な看護を考える力を培う。				
到達目標 1. 母性の基盤となる概念を理解できる。 2. 母性看護の在り方、倫理について理解することができる。 3. 母性看護の対象を取り巻く環境の動向と法律・施策について理解できる。 4. 次世代健全育成のために、地域社会での支援システムとその必要性を理解し看護師としての関わり方を学ぶ。 5. 人間の性と生殖について理解し、生命について自己の考えを深める。 6. 女性のライフサイクルにおける特性と健康に影響を与える要因について理解できる。				
学位授与方針との関連 ・看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 ・患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができる。円滑なコミュニケーションをとることができる。 ・社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 ・自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 ・修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 ・チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 ・医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	母性の概念1	授業のオリエンテーション：母性・父性・についてのイメージ (GW)		梅川弘子
2	母性の概念2	母性とは「母性の定義」・母性看護の変遷 (講義)		
3	親になること	母性・父性から親性・養育性・家族 (講義)		
4	リプロダクティブヘルス/ライツ	性的健康と性的権利/ 女性を中心としたケア/自己決定権 (講義)		
5	母子保健統計の理解	労働力に関連する諸要因/母子保健水準と統計値/ 諸外国との比較・周産期医療体制 (講義)		
6	母子にかかわる法律と社会資源	母子の健康・就労・福祉など関する法律/健やか親子21 2次/少子化対策 (講義)		
7	生殖に関する機能とライフサイクル/遺伝	発生・性周期 (講義)		
8		遺伝子と遺伝/不妊の原因と治療 (講義)		
9	ジェンダー	女性らしさ/男性らしさを考える。 (GW)		
10	ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援	女性のライフサイクル全体像 (講義)		
11	思春期の健康支援	思春期の特徴と健康課題/性感染症 (講義)		
12	成熟期の健康支援	成熟期の特徴と健康課題授業 (講義)		
13	更年期/老年期の健康支援	更年期・老年期の特徴と健康課題 (講義)		
14	リプロダクティブヘルス/ライツと家族計画	避妊/受胎調節/DVと女性への支援 (講義)		
15	国際化	在日外国人女性の健康/在日外国人女性の妊娠・出産・産後 (講義)		
授業時間外の学習 予習をして授業に臨むこと				
教科書 母性看護学I 概論・ライフサイクル 南江堂				
参考文献等 国民衛生の動向				
評価の方法 終講試験（筆記）80%、提出物 20% 終講試験後、個人の解答用紙は返却しないが開示は可能とする。				
オフィスアワー 講義終了後10分間				
授業に関する実務経験 ・病院にて看護師・助産師として勤務				

授業科目 母性看護学方法論Ⅱ	担当教員 筒井 久美子・梅川 弘子	配当年次・時期 2年次・後期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義・演習	履修要件 特になし			
授業の概要（150文字程度） 母性看護学方法論Ⅰで学んだ基本的知識と看護技術をもとに、妊娠期・分娩期を踏まえた、産褥期・新生児期の看護過程を展開し、対象のセルフケア能力を高める看護を考える能力を培う。				
到達目標 1. 対象の妊娠期・分娩期を踏まえた、産褥期および新生児の看護過程を展開できる。 2. 家族を含めた看護の必要性が理解できる。 3. 母性看護に必要な看護技術を理解し、習得できる。				
学位授与方針との関連 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができる、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1～2	母性看護過程	1. 母性看護における看護過程とは 2. 看護過程の考え方 3. ウエルネス志向型看護過程 (講義)		筒井 久美子
3～4		4. 事例による看護過程の展開（演習） 褥婦のフィジカルアセスメントを含めた分析・診断 (講義)		筒井 久美子 梅川 弘子
5		5. 事例による看護過程の展開（演習） 新生児のフィジカルアセスメントを含めた分析・診断 (講義)		
6～8		6. 母性標準看護計画立案 (GM・発表・講評)		
9	母性看護技術	7. 実習に向けて母性看護技術の習得 1) 新生児の計測とバイタル測定 (講義) 2) 新生児の日常生活援助 (鑑賞)		筒井 久美子 梅川 弘子 外部講師
10～15		7. 実習に向けて母性看護技術の習得 1) 新生児の計測とバイタル測定 3) 新生児の日常生活援助 (演習)		
授業時間外の学習 ・課題（看護過程の紙上事例展開）は、授業時間以外で遂行する。 ・グループワーク（産褥・新生児の標準看護計画）は授業時間で不足の場合は、時間以外で遂行する。 ・技術演習は、授業資料、母性看護技術や他の参考書などを利用して実習でも使用できるように援助計画を作成する。 ・技術演習はイメージトレーニングをしておくこと。				
教科書 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 森 恵美他著 医学書院 第13版 2016年 ・根拠と事故防止からみた 母性看護技術 石村 由利子他著 医学書院 第2版 2015年 ・根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウエルネス志向型ケア計画 中村 幸代他著 南江堂 2018年				
参考文献等 ・母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 母と子そして家族へのより良い看護実践 林 ひろみ他著 南江堂 改訂第2版 2018年 ・実践 マタニティ診断 青木 康子他著 医学書院 第4版第2刷 2016年				
評価の方法 課題①（看護過程・分娩期の看護計画）提出 50% 課題②（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の学習ブック）20% 実技試験 30% 提出状況評価に含む				
オフィスアワー 講義終了後10分間				
授業に関する実務経験 ・病院・診療所にて助産師として勤務				

授業科目 精神看護学概論	担当教員 谷川 英二	配当年次・時期 1年次・後期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義・演習（グループワーク）		履修要件 特になし		
授業の概要 精神看護学概論では現代社会に影響を受ける心の健康、健康問題を学び、メンタルヘルスの意義と必要性を知るのを目指す。 精神科医療の歴史の変遷から精神障がい者の理解を図り、人権擁護、法律の意義・必要性について学ぶ。 また、社会的側面として精神保健福祉を学ぶことで、精神看護を行うための基礎的な知識を習得できるように目指す。				
到達目標 1. 心身の発達とこころの健康を理解することができる。 2. こころの健康の保持・増進を学ぶことができる。 3. 精神看護の対象を理解することができる。 4. 精神看護の意義を学ぶことができる。 5. 精神の歴史の変遷を学ぶことができる。 6. 精神にかかわる法制度を学ぶことができる。				
学位授与方針との関連 ◎看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 ◎患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 ◎社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 ◎自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 ◎修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 ◎チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 ◎医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	精神科看護と精神看護	授業のガイダンス 精神看護とは (講義)		谷川英二
2	心・精神とは	グループワーク (講義)		
3		グループワーク・こころとは・精神とは (講義)		
4		グループワーク・発表準備 (講義)		
5		「心のケア」と現代社会・精神障害の体験と精神看護 (講義)		
6	精神看護で学ぶこと	精神看護で何を学ぶのか (講義)		
7	精神保健の考え方	精神の健康とは・精神障害のとらえ方・ストレスと健康の危機 (講義)		
8	人間の心の働きとパーソナリティ	人間の心の諸活動 (講義)		
9		心のしくみと人格の発達 (講義)		
10	社会の中の精神障害	精神障害と治療の歴史（世界史） (講義)		
11		精神障害と治療の歴史（日本史） (講義)		
12		精神障害と文化－多様性と普遍性・精神障害と社会学 (講義)		
13	精神保健に関する法律と制度	精神看護と法律・（講義）・精神科領域で必要な法律 (講義)		
14		法律・制度における課題・主要な精神保健医療福祉対策 (講義)		
15	総まとめ	学習のまとめ (講義・小テスト・自己学習)		
授業時間外の学習 事前に教科書を読み予習を行うこと。授業後、理解が不十分だったところは復習し補うこと。				
教科書 1. 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 2. 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院				
参考文献等 1. 系看護学全書 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社 2. 精神看護学 医学芸術社				
評価の方法 終講試験（筆記）100％ *但し、評価の前提条件として終講試験に出席した者に限る				
オフィスアワー 講義終了後10分間				
授業に関する実務経験 ・病院にて看護師として勤務				

授業科目 保健医療概論	担当教員 丸山 睦	配当年次・時期 1年次・後期	単位数/時間数 1単位/30時間	必修/選択別 必修
授業方法 講義	履修要件 特になし			
授業の概要（150文字程度） 少子高齢化や疾病構造の変化に伴い、人々の生活は多様化・複雑化している。公衆衛生看護は地域で生活している人の健康を保持増進し、健康への回復を支援していくものである。本授業では、個人、家族、集団、地域における健康支援のあり方を学ぶ。				
到達目標 現在の医療体制、医の倫理、医学の発展などについて目を向け、関心を持ち、自ら考えることができる。 公的な医療保険や介護保険といった保健医療副題制度の仕組みや課題を理解する。 人間のライフサイクルにあわせて組織されている保健医療福祉サービスの仕組みや課題を理解する。				
学位授与方針との関連 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	健康概念	健康概念とヘルスプロモーション	(講義)	丸山 睦
2	プライマリヘルスケア	プライマリヘルスケア（PHC）	(講義)	
3	精神保健	対象別地域保健活動：精神保健	(講義)	
4	難病対策	対象別地域保健活動：難病対策	(講義)	
5	感染症対策	対象別地域保健活動：感染症対策	(講義)	
6	産業保健	職場の健康管理（産業保健）	(講義)	
7	健康支援の方法	健康支援活動まとめⅠ	(講義)	
8	健康づくりと地域	健康づくりと地域	(講義)	
9	医療保障制度	社会保障制度（医療保障制度）	(講義)	
10	成人保健	対象別地域保健活動：成人保健	(講義)	
11	健康づくり計画	健康づくり計画	(講義)	
12	母子保健	対象別地域保健活動：母子保健	(講義)	
13	介護保険制度	社会保障制度（介護保険制度）	(講義)	
14	高齢者保健	対象別地域保健活動：高齢者保健	(講義)	
15	まとめ	健康支援活動まとめⅡ	(講義)	
授業時間外の学習 授業内容の復習を必ず行うこと。次回の授業内容について予習を行うこと。				
教科書 国民衛生の動向2019/2020 授業中にプリントを配布する				
参考文献等 なし				
評価の方法 終講試験（筆記）70％ 平常点 30％				
オフィスアワー 講義終了後10分間				
授業に関する実務経験 ・行政機関にて保健師として勤務				

実務経験のある教員等による
授業科目のシラバス

【専攻科（地域看護学専攻）】

授業科目	担当教員	配当年次・時期	単位数/時間数	必修/選択別
公衆衛生看護学概論Ⅰ	北本 さゆり	1年次・前期	1単位/15時間	必修
授業方法	履修要件			
講義・演習	特になし			
授業の概要				
公衆衛生看護の理念・目的、対象、活動方法についての基礎を学ぶ。公衆衛生および公衆衛生看護とは何かについて、歴史的な変遷と社会環境と関連させて理解する。健康課題の解決のための活動方法や社会資源について理解する。公衆衛生看護活動の展開方法について、実習する市区町村の活動と照らし合わせて理解する。ゲストスピーカーによる講義あり。				
到達目標				
1. 公衆衛生看護の理念・目的、対象、方法について理解することができる。 2. 公衆衛生についての歴史を理解し、社会環境と関連させて理解することができる。 3. 地域の健康問題解決のための活動方法についての基本的な知識を身につけることができる。 4. 公衆衛生看護活動の展開方法について理解し、地域に応じた具体的方法を考えることができる。				
学位授与方針との関連				
看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。 地域に存在する社会資源の把握及び活用方法を修得し、必要な支援システムや資源について考えることができる。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	公衆衛生看護の理念と目的	地域における保健師の保健活動に関する基本的指針・個から集団へつながる活動（講義）		北本 さゆり
2	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	プライマリヘルスケア及びヘルスプロモーションについて（講義）		北本 さゆり
3	公衆衛生看護の対象と場	公衆衛生看護の対象・公衆衛生看護の場・家族の発達段階（講義）		北本 さゆり
4	公衆衛生の歴史	公衆衛生制度のあゆみ（講義）		北本 さゆり 菊川 縫子
5	公衆衛生活動の実際	公衆衛生活動の実際・放射線の人体への影響（講義）		北本 さゆり 菊川 縫子
6	人口及び疾病構造の変化	人口の推移・人口動態・疾病構造の変化について（講義）		北本 さゆり
7	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護活動の具体的な展開方法（講義・グループワーク）		北本 さゆり
8	保健計画の策定	市町村における保健計画の策定について（講義・グループワーク）		北本 さゆり
授業時間外の学習				
事前にテキストで予習し、講義の内容の理解を進めること。講義内容に出てきた用語について、復習して理解を深める。				
教科書				
「標準保健師講座Ⅰ 公衆衛生看護学概論」 医学書院 「地域保健ノート」公益財団法人大阪公衆衛生協会 「国民衛生の動向2018/2019」 厚生労働統計協会				
参考文献等				
授業時間内に適宜紹介				
評価の方法				
定期試験（筆記試験）80%、演習の参加状況や課題20% 定期試験後、個人の解答用紙は返却しないが、解答解説を配布する。				
オフィスアワー				
火曜日12:00～13:00				
授業に関する実務経験				
(北本) ・市(市役所)にて保健師として勤務				

授業科目	担当教員	配当年次・時期	単位数/時間数	必修/選択別
公衆衛生看護学概論Ⅱ	北本 さゆり	1年次・後期	1単位/15時間	必修
授業方法		履修要件		
講義・演習		特になし		
授業の概要				
公衆衛生看護の対象と活動方法について、個人・家族、集団、地域を捉える視点を理解し、活動の場の特性と活動方法を関連させて考えることを学ぶ。支援技術、施策へと発展させるために必要な理論・理念・方法を理解できる。災害時の行政の機能および保健師の役割について理解できる。				
到達目標				
1. 地域の健康問題解決のための社会資源について基本的な知識を身につけることができる。 2. 公衆衛生看護活動についてアセスメントから立案、実施、評価まで一連の流れに沿って理解することができる。 3. 災害時の行政の機能および保健師の役割について理解することができる。 4. 公衆衛生看護の歴史について社会環境と関連させて理解することができる。				
学位授与方針との関連				
看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。 公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に対して、対象別の実践方法を理解している。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	公衆衛生看護の活動の展開	公衆衛生看護活動の具体的な展開方法（講義）・実習地における保健師活動（グループワーク）		北本 さゆり
2	公衆衛生看護の活動の実際	地域の健康問題解決のための方法および社会資源について（講義・グループワーク）		北本 さゆり
3	公衆衛生看護活動の評価	公衆衛生看護活動の評価について（講義）		北本 さゆり
4	公衆衛生看護の歴史と健康危機管理	公衆衛生看護の歴史・健康危機管理の理念と目的（講義）		北本 さゆり
5	災害時における保健活動1	災害サイクルの各期における保健師活動（講義）		北本 さゆり
6	災害時における保健活動2	災害サイクルの各期における保健師活動（講義）・発災直後の組織的対応（演習）		北本 さゆり
7	地域共生社会	地域共生社会における保健師の役割（講義）		北本 さゆり
8	公衆衛生看護における活動理論	公衆衛生看護を展開する上で活用できる理論（講義）		北本 さゆり
授業時間外の学習				
事前にテキストで予習し、講義内容の理解を進めること。グループワークでの演習内容を整理し、理解を深めること。				
教科書				
「標準保健師講座Ⅰ 公衆衛生看護学概論」 医学書院				
参考文献等				
授業時間内に適宜紹介				
評価の方法				
定期試験（筆記試験）100％ 定期試験後、個人の解答用紙は返却しないが、解答解説を配布する。				
オフィスアワー				
火曜日12：00～13：00				
授業に関する実務経験				
・市（市役所）にて保健師として勤務				

授業科目	担当教員	配当年次・時期	単位数/時間数	必修/選択別
成人保健指導	高橋 真由美	1年次・前期	1単位/15時間	必修
授業方法	履修要件			
講義	特になし			
授業の概要				
成人期の特徴と役割、生活と健康障害との関連を学び、健康増進と生活習慣病対策を中心に、国の動向及び地域における保健活動について理解を深める。また、感染症、特に結核、HIV感染症、B・C型肝炎について最近の動向と対策を学ぶ。がん予防についての地域の取り組みや治療の動向と施策を習得する。さらに、地域で生活する難病療養者の生活を理解し、難病対策と地域保健活動について学ぶ。				
到達目標				
1. 成人保健の動向や生活習慣病対策、保健活動について理解することができる。 2. 感染症の最近の動向や結核の管理体系、保健活動について理解することができる。 3. 難病療養者の生活、難病対策と保健活動について理解することができる。				
学位授与方針との関連				
看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に対して、対象別の実践方法を理解している。				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	感染症保健活動①	感染症の最近の動向と公衆衛生看護活動（講義）		高橋 真由美
2	感染症保健活動②	結核の管理体系と公衆衛生看護活動（講義）		高橋 真由美
3	成人保健の動向	成人保健施策・健康日本21（講義）		高橋 真由美
4	生活習慣病と保健指導①	メタボリックシンドロームと特定健康診査・特定保健指導（講義）		高橋 真由美
5	生活習慣病と保健指導②	がんの予防と対策（講義）		高橋 真由美
6	生活習慣病と保健指導③	糖尿病と合併症予防（講義）		高橋 真由美
7	生活習慣病と保健指導④	高血圧・脂質異常症と脳卒中予防（講義）		高橋 真由美
8	難病保健活動	難病保健の動向と施策（講義）		高橋 真由美
授業時間外の学習				
結核についてのレポートを作成すること。また、授業時間内に小テストを1回行う。 授業の予習・復習を行うこと。				
教科書				
「最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①」メヂカルフレンド社 「最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論②」メヂカルフレンド社 「国民衛生の動向 2018/2019」厚生労働統計協会 「2018年改訂 沖田くんのタイムスリップ」結核予防会				
参考文献等				
なし				
評価の方法				
筆記試験（70％）、レポート（15％）、小テスト（15％）				
オフィスアワー				
講義前または終了後10分間				
授業に関する実務経験				
・市にて保健師として勤務				

授業科目	担当教員	配当年次・時期	単位数/時間数	必修/選択別
高齢者保健指導	北本 さゆり	1年次・前期	1単位/15時間	必修
授業方法	履修要件			
講義・演習	特になし			
授業の概要				
<p>高齢者の身体的・心理的・社会的状況を学び、高齢者が地域において健康で自立した生活を送るためにどのような支援・制度があるのかを知る。また、高齢者支援における課題を知り、保健師の役割について考える。地域包括ケアシステムのあり方を学び、多職種協働の必要性と保健師の役割を知る。</p> <p>ゲストスピーカーによる講義あり。</p>				
到達目標				
<p>1. 高齢者の置かれている状況を知り、高齢者が地域で自立した生活を送るための施策を修得する。</p> <p>2. 高齢者支援における保健師の役割について考えることができる。</p> <p>3. 多職種協働の重要性を認識し、地域包括ケアシステムにおける保健師の役割を考えることができる。</p>				
学位授与方針との関連				
<p>看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。</p> <p>公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に対して、対象別の実践方法を理解している。</p>				
講義回数	授業テーマ	授業内容・方法		担当
1	高齢者とは	高齢者の特徴・エイジズム（講義）		北本 さゆり
2	高齢者と地域保健活動・高齢者を取り巻く社会	高齢者保健福祉対策の変遷・高齢者と地域保健活動（講義）		北本 さゆり
3	認知症予防と新オレンジプラン	認知症とその予防・新オレンジプラン（講義）		北本 さゆり
4	認知症サポーター養成講座	認知症キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座（講義・演習）		北本 さゆり 外部講師 (認知症キャラバン・メイト)
5	介護保険制度	介護保険制度の現状と問題点・保健師の役割（講義）		北本 さゆり
6	介護予防と総合事業	地域支援事業と総合事業（講義）		北本 さゆり
7	地域包括ケアシステムと地域包括支援センター	地域包括ケアシステムと地域包括支援センター（講義・演習）		北本 さゆり 外部講師 (地域包括支援センター職員)
8	高齢者虐待と権利擁護	高齢者虐待の現状と対応・成年後見制度（講義）		北本 さゆり
授業時間外の学習				
授業の予習をすること。授業中に指定したレポートを作成し提出すること。				
教科書				
<p>「最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①」メヂカルフレンド社</p> <p>「国民衛生の動向2018/2019」厚生労働統計協会</p> <p>「国民の福祉と介護の動向2018/2019」厚生労働統計協会</p>				
参考文献等				
授業時間内に適宜紹介				
評価の方法				
定期試験（筆記試験）80％、レポート提出 20％ 定期試験後、個人の解答用紙は返却しないが、解答解説を配布する。				
オフィスアワー				
火曜日12:00～13:00				
授業に関する実務経験				
<p>(北本)</p> <p>・市(市役所)にて保健師として勤務</p>				